

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第74回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2018年02月21日(水) 13:30~15:50
- 2 場所 5 東洋海事ビル D会議室
- 3 出席者(順不同, 敬称略)
- (出席委員) 新堀部会長, 高橋副部会長, 加藤幹事, 上田, 大間, 小畑, 川上, 久保, 熊崎, 小山, 斉藤, 坂下, 白井, 田中, 田村, 深澤, 藤田, 古谷, 山本(19名)
- (代理委員) 門井務(関西電力/片岡代理), 大平幸一(原子燃料工業/大久保代理), 高橋秀治(東京工業大学/代理)(3名)
- (欠席委員) 中島, 柳原(2名)
- (常時参加者) 吉居(1名)
- (欠席常時参加者) 緑川(1名)
- (説明者) 【LLW放射能評価分科会】北島英明幹事, 柏木誠常時参加者, 本山光志常時参加者, 【LLW埋設施設検査方法分科会及びLLW埋設後管理分科会】村松事務局(4名)
- (事務局) 中越, 田老, 谷井(3名)

4 配付資料

- FTC74-0 第74回原子燃料サイクル専門部会議事次第(案)
- FTC74-1 第73回原子燃料サイクル専門部会議事録(案)
- FTC74-2 人事について
- FTC74-3-1 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査結果
- FTC74-3-2 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査で受付けた意見(川崎様)への回答案について
- FTC74-3-3 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査で受付けた意見(山口様)への回答案について
- FTC74-4-1 【中間報告】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の改定について
- FTC74-4-2 【中間報告】(概要)“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”改定(案)
- FTC74-5 LLW埋設施設検査方法分科会及びLLW埋設後管理分科会活動状況について
- FTC74-6 標準策定5カ年計画について
- FTC74-7 分科会活動状況

参考資料

- FTC74-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC74-参考2 標準委員会の活動状況

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員 24 名中、代理委員を含め 22 名の出席があり、成立に必要な委員数（16 名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC74-1)

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC74-2)

配付資料 FTC74-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、分科会の主査（副主査・幹事）退任等が確認され、審議の結果、専門部会の委員（分科会代表者）選任等が決議された。

【専門部会】

1) 委員（分科会代表者）選任の決議

【LLW 埋設後管理分科会】

山本 正史（原子力環境整備促進・資金管理センター）

2) 委員再任の決議

川上 泰（原子力安全研究協会）

新堀部会長の任期が2018.04月末までのため、部会長の互選投票を行った結果、新堀氏20票、高橋氏1票、白紙1票で、新堀氏が部会長に選任された。新堀氏の部会長の選任に伴い、高橋氏が副部会長、加藤氏が幹事に指名された、

【分科会】

1) 主査（副主査・幹事）退任の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

新堀 雄一（東北大学）（主査）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

川上 泰（原子力安全研究協会）（主査）

新堀 雄一（東北大学）（副主査）

河西 基（アサノ大成基礎エンジニアリング）（副主査）

（第19回分科会（2017.12.13）にて副主査に指名。ただし、第20回分科会（2018.02.13）にて主査に選任されたため、第20回分科会にて副主査を退任）

2) 主査選任の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

河西 基（アサノ大成基礎エンジニアリング）（主査）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

河西 基（アサノ大成基礎エンジニアリング）（主査）

3) 副主査（幹事）指名の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

山本 正史（原子力環境整備促進・資金管理センター）（副主査）

村松 貴史（原子力安全推進協会）（幹事）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

河西 基（アサノ大成建設基礎エンジニアリング）（副主査）

（第19回分科会にて副主査に指名。ただし、第20回分科会にて主査に選任されたため、第20回分科会にて副主査を退任）

高尾 肇（日揮）（副主査）

村松 貴史（原子力安全推進協会）（幹事）

4) 委員退任の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

新堀 雄一（東北大学）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

新堀 雄一（東北大学）

藤谷 昌弘（旧日本原子力安全基盤機構）

吉森 道郎（日本原子力研究開発機構）

5) 委員選任の承認決議

【LLW 埋設後管理分科会】

石橋 純（三菱マテリアル）

井尻 祐二（大成建設）

齋藤 健司（日本原燃）

村松 貴史（原子力安全推進協会）

森本 恵司（関西電力）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

石橋 純（三菱マテリアル）

今井 久（安藤・間）

枝松 良展（ニュージェック）

金子 俊輔（東電設計）

工藤 淳（日本原燃）

鈴木 覚（原子力発電環境設備機構）

高尾 肇（日揮）

新津 茂彦（東京電力ホールディングス）

野村 晶次（日本原子力発電）

村松 貴史（原子力安全推進協会）

山本 修一（大林組）

脇 寿一（関西電力）

6) 委員所属変更の確認

【リサイクル燃料貯蔵分科会】

佐伯 綾一

元：東芝

変更後：東芝エネルギーシステムズ

7) 常時参加者登録解除の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

坂本 英一（日本原燃）

仙波 毅（原子力安全推進協会）

中村 憲司（三菱マテリアル）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

安田 裕司（旧日本原子力技術協会）

枝松 良典（ニュージェック）

田中 明（日本原燃）

増田 良一（日本原燃）

庭瀬 一仁（日本原燃）

山本 正幸（三菱マテリアル）

池田 整（旧日本原子力技術協会）

大内 優（日本原子力研究開発機構）

大音 明洋（旧原子力安全・保安院）

小野 文彦（東電設計）

金子 岳夫（東電設計）

新保 弘（鹿島建設）

田中 靖人（日揮）

中瀬 辰男（原子力環境整備促進・資金管理センター）

中村 憲司（三菱マテリアル）

廣永 道彦（電力中央研究所）

山田 善之（原子力環境整備促進・資金管理センター）

8) 常時参加者登録承認の確認

【LLW 埋設後管理分科会】

持田 泰孝（日揮）

【LLW 埋設施設検査方法分科会】

河田 陽介（三菱マテリアル）

黒沢 満（三菱マテリアル）

小松 喬（三菱マテリアル）

田村 明男（原子力安全推進協会）

山岡 功（原子力安全推進協会）

南 将行（日本原燃）

東原 知広（原子力規制庁）

（3）【報告・審議】“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への回答案について（FTC74-3-1，FTC74-3-2，FTC74-3-3）

LLW 放射能評価分科会の北島幹事，柏木常時参加者から FTC74-3-1，FTC74-3-2，FTC74-3-3 に基づいて“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への回答案について報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

C：高め（大きめ）の評価となるでは，保守的だから良いのではと受け取られてしまう。

より近い評価ができるなどシンプルに言った方がよいのでは？

A：拝承。“（換算係数の評価には）幾何平均の方が，より真値に近い評価となる”などに表現を見直す。

C：添付（定性評価）は必要か？親切に説明を加えたものと考えてるが，逆に，疑問を生じさせるのならば，無くてもよいのでは？

A：拝承。定性評価の説明資料は，省くこととする。

C：私が行った評価の結果と違うことが気になる。

A：委員の実施した評価の結果をチェックさせていただき，影響の有無を確認する。

C：Hf-174 が原子炉内の照射で生成することはないのか，もし，天然にも存在し，原子炉内の照射によっても生成する放射性同位体が存在するならば，“ただし，以降の表現”は残した方がよいのでは？

A：拝承。表現を残し，下記のように見直す。“ただし，天然に広く存在する放射性同位体は除外しない。”

（4）【報告・審議】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の標準改定に関する中間報告について（FTC74-4-1，FTC74-4-2）

LLW 放射能評価分科会の北島幹事，本山常時参加者から FTC74-4-1，FTC74-4-2 に基づいて，“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の標準改定に関する中間報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

C：標準改定案がない状態で，標準委員会に中間報告を行うことは良いのか

A：標準改定案はほとんど出来上がっているが，最終版の状態ではない。通常，中間報告では，標準改定案を提出することはない。標準委員会では，念のため標準改定案をプロジェクトに投

影することとする。

C：標準委員会で何を論点にして説明するのかよくわからない。説明時間が短いので、この辺りはよく考えておくように

A：改定の趣旨が論点と考えている。このため、各論については、参考までに付けておくような対応を図りたい。

C：データが少ないなどの理由で相関性があることを確認できない場合に保守的であればスケールリングファクタ法が適用できるというのは、どういう意味か不明瞭である。

A：既往知見や理論的に本来は相関関係がある筈でも、放射能濃度が低くデータで相関性が確認できない場合には、統計的に保守的な数値であれば適用できることを意味している。

現状このようには理解できないので表現を修正する。

C：データが少ないなどの理由で濃度分布などが確認できない場合に保守的であれば平均放射能濃度法が適用できるというのも、上記と同様に不明瞭である。

A：クリアランスでは放射能濃度が低く、このようにすることがあり、これを、同様に放射能濃度が低いL3まで拡張しようとしたものであるが、表現を修正する。

(5) 【報告】LLW 埋設施設検査方法分科会及びLLW 埋設後管理分科会活動状況について(FTC74-5)

LLW 埋設施設検査方法分科会及びLLW 埋設後管理分科会の村松事務局からFTC74-5に基づいて、LLW 埋設施設検査方法分科会及びLLW 埋設後管理分科会活動状況について中間報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

C：規制の動きで、性能規定化の動きがあるがこの標準に反映されるのか？

A：性能規定化を反映して改定していくことになるが、標準でどの様に整理していくのか今後、議論して進めていくことになる。

C：検査方法の標準に関しては、原子炉側の検査方法の見直しにかかる影響はあるのか？

A：原子炉側の検査制度に見直しについては、現在、保安検査で実施されているが、この議論が収束すれば埋設に対しても何かしらの対応が求められる可能性がある。埋設施設の検査は確認行為であるので、原子炉側の保安検査とは若干異なると考えており、この標準を活用して検査していくのか、従前と同様に規制に従って検査していくのか明確になっていない。ROPの延長線上で事業者側としてしっかりやらなくてはいけないということになると、検査標準の位置づけは重要性が増すことになる。

(6) 【報告】標準策定5カ年計画について(FTC74-6)

加藤幹事からFTC74-6に基づいて、原子燃料サイクル専門部会標準策定5カ年計画(平成30年度版案)について報告があり、本案を修正し、標準委員会で報告することとなった。

主な質疑等は以下のとおり。

C：分科会の廃止、統合の記載の整合化が必要。

Q：標準委員会のコメントに対応した改訂時期の見直しは実施したのか。

A：実施した。

6 その他

次回第75回原子燃料サイクル専門部会は、5月24日（木）13:30から開催することとなった。

以上